

参議院議員の井上哲士さん

南知多町で国会報告！

7月22日 内海サービスセンターで「国政・町政を考える集い」開催



井上哲士参議院議員は、2001年に当選して以来4期目のベテラン議員。今の岸田政権を憲法製造マシンと厳しく指摘し、軍備増強・原発回帰・マイナ保険証・入管法とLGBT法の改悪等、何でもアメリカ言いなりの国でいいのかと鋭く批判されました。

また、被爆2世である井上さんは、世界の核兵器廃絶に向けて国会での質問や発信を続けています。



共産党は政党助成金をもらっていないそうだがなぜか。正しいことをしているのだから、お金をもらってもっと宣伝してほしい。
(井上)政党は独立したものであり、政党助成金は支持していない政党にまで、赤ちゃんから年寄りまで、年に1人250円の税金を払っている。この制度は、憲法に違反しているもので、廃止すべきと考えている。



〈参加者の質問・意見〉

私は人の成長に幼児期の教育が大切だと思う。フィンランドでは、与野党ともに教育を最重要課題として取り組み、力を入れている。日本もそのようにできないのか。

(井上)岸田政権も異次元の子育て支援と言うが、一部の競争に勝ち抜けるエリートを育てようとしている。共産党も教育は重要だと考え、すべての人が等しく教育を受けられるような社会を作りたいと、努力している。

福島原発汚染水が海に放出されようとしている。とても危険なことだと思うが、共産党はどう考えているのか。
(井上)共産党も、東北地方の議員と経済担当の議員で申入れをした。放射性物質は取り切れておらず魚に濃縮されることも心配。安心して漁ができることが大切。福島を終わったことにして再稼働することは許されない。

7月2日 衆議院東海比例候補 すやま初美さんも来町



7月2日には、大井公民館で「町政・国政を考える集い」が、日本共産党東海ブロック比例候補者のすやま初美さんを迎え、大井の町民の皆さんなど約30人が参加して開催されました。すやまさんは元気はつらつと国政を国民のための政治に変える決意を話されました。



り全滅されたチエコスロバキアのある村を訪問した時のことが頭に浮かんだ。日本人だと知って老女が「ヒロシマ！ ヒロシマ！」と叫んで抱きついてきた。「ヒロシマは世界の言葉なんだ」と知って衝撃を受けた。そのことを思い起こし「ヒロシマの母」として書くことを決意されたので



「青い空は青いままで、子どもらに伝えたい」と――
―何度歌ったことでしょうか。「青い空は」の作詞者である小森香子さんの訃報に先日接しました。
小森さんは原爆の歌の作詞を依頼された時、被爆者でない自分が書けるのかと思っただけです。でも、かつてナチスによ

井上さとし 青い空は青いままで

す。
ヒロシマの力を私が実感したのは、被爆二世として6年前、国連で核兵器禁止条約採択に立ち会った時のこと。採択の瞬間はもちろんですが、その後、発言に立った各国代表が口々に語ったことにも感動しました。被爆者が自らの体験を語ることによって「核兵器は人類と共存できない非人道的兵器だ」という訴えが世界を動かしたことへの感謝の言葉が続いたのです。
核兵器の非人道性を一番知っているのは日本政府のはず。ところがサミットでの「G7広島ビジョン」は核兵器禁止条約には一言も触れず、核抑止に固執する内容を被爆地から世界に発信した恥ずべきものでした。原爆資料館で何を見たのか。今年も8月6日は広島に「青い空は」を歌い、被爆者の願いが届く政治への転換を誓います。
(日本共産党参議院議員)